



つながろう

# CO-OP アクション情報

2011年12月7日

第8号

◆被災地の皆さまと共に  
頑張りたい  
～イベント車贈呈式  
あいさつより



日本生協連副会長  
ちばコープ理事長  
田井 修司氏

震災被害と原発事故という想像を超える二重被害の中、復興と事業継続に全力を尽くされるコープふくしまの皆さまに心より敬意を表します。

本日は皆さまの活動に少しでもお役に立てればと願い、イベント車をお届けに参りました。既に1台導入されたみやぎ生協では、短期間に200人のご加入があったと伺っています。

現在、福島県内外で避難生活を余儀なくされている方は、15万人を超えています。千葉県でも3,000人以上、特に鴨川市には重度の障がいのある方300人が避難されており、地域の組合員さんと共に冬物衣料や日用品の寄贈をさせていただいております。こうした取り組みを通して、コープふくしまの皆さまと全国の生協の絆が一層深まり、復興支援の歩みがより着実になることを確信しております。

長い道のりですが、共に力を合わせ、頑張りたいと思います。

## 心も体も温まるボランティアで、たくさんの人を笑顔に

コープいしかわは11月19、20日に、組合員・役職員19人、そして金沢大学足湯サークルの学生約40人で、陸前高田市広田地区の2つの仮設住宅を訪れ、7回目のボランティア活動を行ないました。

地元陸前高田市で被災したメーカーである株式会社アマタケさんの「岩手合鴨鍋」の炊き出しや、集会所での入浴剤作り、そして足湯と、内容は盛りだくさん。20日は別の仮設住宅で、これら活動に加え、チラシなどを張るための「掲示板」を製作・設置しました。

参加した組合員の渡辺ひろみさんは、活動について、「私には、ガレキ撤去は難しいですが、炊き出しならできます。おいしいと好評でよかった」と話していました。また、総合企画部の谷口智一さんは、入浴剤作りについて、「寒さに向かう中で、仮設住宅の暮らしに役立つ支援はないかと考え、思いついた」と言います。この入浴剤を隣の「足湯」に利用したところ大変喜ばれ、話が弾んでいました。



「珍しい！」と人気だった鴨鍋の炊き出し。



温かい足湯とマッサージに笑顔がこぼれる。

## コープふくしまにイベント車を贈呈



贈呈式のあと、イベント車が始動した。



車内には、棚や調理スペースなどがある。

11月24日、コープふくしまに、生協への加入ご案内の際に使用するイベント車が納車され、コープふくしま北・南支部（福島県福島市）にて贈呈式が行なわれました。

このイベント車は1.5トントラックで、荷台の中には、常温・冷蔵・冷凍食品の入る棚やケースがあり、生協の説明や試食ができます。以前、みやぎ生協に寄贈された2台（1台は来年納車予定）に引き続き、3台目となります。

当日はイベント車を寄贈した日本生協連・田井修司副会長や、サンネット事業連合・倉田秀昭専務理事、コープふくしま・野中俊吉専務理事をはじめとした役職員63人が出席しました。

贈呈式のあとイベント車が始動。車内の調理スペースでは、温かいうどんの試食を実施。仮設住宅の方が20人ほど集まり、生協のおすすめやコミュニケーションが活発に行なわれていました。